

## 平成28年度 長野市産業振興審議会 第3回 観光振興専門分科会会議録

日 時 平成28年10月14日（金） 午後3時30分から午後5時まで  
場 所 長野市役所 職員会館3階 会議室  
出席者 委員（13人中11人出席）  
事務局6人  
次期長野市観光振興計画策定の支援業務受託事業者 2人

### 1 議長選出

長野市産業振興審議会条例第6条の規定により、以下のとおり選出  
議長：笠原 甲一 委員

### 2 議事（要旨）

#### (1) 次期長野市観光振興計画の素案について

資料1「長野市観光振興計画 素案」に基づき事務局説明

#### <主な質疑応答及び意見>

Q：目標をこれほど細かくする必要があるのか。（人単位で出ている）

A：百人、千人単位で整理するなど、検討したい。観光消費額も同様に検討する。

Q：コンベンション参加者数を出しているが、これはながの観光コンベンションビューローが支援しているものに限った数字であり、施設が直接開催しているもの等は数値に反映されていないので、一文入れておくべき。

A：追記させていただく。

Q：入込客数が5%増、一人あたり観光消費額が10%増。これらを掛け合わせるともう少し経済波及効果が増えるのではないか。

A：経済波及効果については自給率が考慮されていることに加え、計算方法が異なるため、単純にリンクはしない。例えば、市内での調達と一人あたりの消費額を増やすなど事業者間の連携を高めることで、経済波及効果が高まることになる。

Q：そうなると市内調達を増やしたり事業者間連携を高めるという目標をたてる必要があるのではないか。

A：関連事業者との連携という文言を計画に入れている

Q：これらの数値がリンクしていないことを明記すべきではないか。

A：検討させていただく。

Q：おもてなし意識の醸成について、長野市を知ってもらうには「ながの検定」が効果的だと思う。ながの検定を取り組み内容に入れることはできないか。

A：主な取り組み内容に入れたいと思う。

Q：オリンピックについて計画に盛り込んでいただいたが、オリンピック事前合宿誘致等の目標値等は計画に盛り込まないのか。

A：長野市全体の指標としては盛り込んでいないが、個別事業の中では成果を把握していきたい。

Q：事前合宿とエクスカージョンは結びつかないのではないかと。ビジネス客の把握が必要になると思う。観光地への波及効果とは異なるのではないかと。

(委員) 来年フランスのジュニアの水泳で15泊される方々がいるが、施設が使えない日というのがあるので、そこで市内を観光してもらえると考えている。事前合宿は宿泊数も長くなるので、経済効果も大きいと考える。

(委員) 東京オリンピックのゴルフが埼玉県川越市霞ヶ関で開催されるという話を聞いたが、その辺は宿泊場所が無いので、軽井沢で開催の可能性もある。スポーツ合宿誘致は継続すべきである。

(委員) 今年スピードスケートのワールドカップが開催されるが、長野市民がそのことを知らない。長野市民に体感してもらわないと効果が実感されない。

(委員) 合宿の練習風景をみたいという人も多い。外に公表すると良い。

A：公表するのは大事。エムウェーブにはコンサート等の大規模な誘致をしていたら、それがどれくらい経済波及効果をもたらしているか試算していただけたところ、大きな額になった。また、ジュニアの誘致は大切で、今16歳のジュニアは東京オリンピックでメダリストになる可能性がある。

Q：計画には松代についても大きく取り上げている。テレビで真田信之は面白く無い人とされているが、家名を残す為に戦ったとして評価が上がっている。しかし、町の人たちが信之について興味をもっていない。住民が松代に関する知識をもっと深めるような取り組みが必要である。

(委員) 松代住民の考え方を少し変えるだけで十分にいける。というのは、自分たちが作りたい街づくりしかしていないのではないかと。観光客目線になっていないのではないかと疑問である。

(委員) 真田家だけでなく佐久間象山など、ポテンシャルは高いのだが、磨き上げが足りてない。今後どうしていくかが非常に重要である。

(委員) 松代は食のイメージが無い。上田ドラマ館前には出店が並んでいるが、松代はどこの店で食べるか悩んでしまう。地元の人にも愛される店が増えてほしい。

(委員) 松代で洗面器くらいの大きさのお皿で焼きそばを出す店がある。このような店も一つの名物になる可能性がある。この前、旅行会社の元社長が来た際に松代を案内した。戦争遺産は観光と結びつけるのが難しいが、栗林家のお墓のあるお寺がすばらしくてびっくりした。このようなもの一つ取っても、資源が豊かであることが伺える。

(委員) 長芋を出すお店など、美味しい良い店はあるのだが、お店の内装が悪

いところがあり、評価を落としている。

アクションプランでも検討していただきたい。

(委員)松代ロイヤルホテルから、連泊する客を増やしたいが、松代の町に「食」があれば連泊も増えるのではないかと、その意見をいただいている。また、松代ロイヤルホテルだけでなく、他の方々からも以前から松代に「食」が足りないと意見をいただいている。地元もそれは分かっているが、解決できていない。

(委員)松代に外部の方を入れる必要がある。外部の方がアプローチしづらく、拒絶感を感じる。松代にはビジネスチャンスがあるのだから、どれだけ外部の方を受け入れられるかが大切。古民家を若者に貸して補助金を出す等の応援が必要。

Q：アクションプランに日本の原風景を満喫する、中山間地域の魅力発掘、コンテンツ開発プロジェクトが入っていて、非常に良いと思う。アクションプランでは作業部会を設立するとあるが、作業部会にはどのような方が集まって、どのように行われるのか。できれば若い方々に参加してもらい、新風を吹き込んでもらいたい。

A：若い方々に参加していただくことを想定している。観光事業者や地域おこし協力隊、農業をされている方など、様々な方に参加してもらいたい。

(委員)中山間地は非常にポテンシャルがある。アレックス・カー氏(アメリカ出身の東洋文化研究家。古民家再生・地域活性化等を手がけている。)が日本の中山間地の空き家をリノベーションした宿をオープンさせている。日本の山里は世界に誇れる。これから日本の田舎がブランド化されるように感じる。

Q：中山間地域開発は全国の課題であり、中山間地域の観光化というのは無理があるように感じてしまう。観光という意識を強くすると、白々しく感じる。極端な発想をすると、その地域でしか使えない通貨を作り、中山間地域で仲間と暮らし里山作りに励むことによってリピーターが増えるのではないかと。

(委員)観光というものの範囲を決める必要は無い。地域づくりも含めて観光である。住民が生き生きとしていることも観光につながる。中山間地域の色々な特色を活かして地域を活性化させることが必要である。中山間地域には可能性が大いにあるので、会議等を開催して磨き上げを行う必要がある。

(委員)私案ではあるが「グリーンブック」を提唱したい。イギリスには庭園(オープンガーデン)を評価する「イエローブック」があり、日本でも日本の原風景を評価するものがあると良い。

Q：中山間地域のアクションプランを見ると、実行時期が平成33年度になっているが、もう少し早く実行できないのか。

A：スケジュールを出すかどうか議論があった。というのはスケジュールを決める類のものではないのではないかと、という意見もあった。できるものから取りかかれれば良いのではないかと考えている。スケジュールは重なっていても良い。

(委員) 先日、キー局からきのことりの取材をしたいとの申し出があったが、その時に山の持ち主を教えてくださいと聞かれた(責任問題などになる可能性があるため)。テレビでPRするなら地域の山に詳しい人にも協力してもらう必要がある。林業との連携も必要。

(委員) 里山については荒れすぎてしまっているが、信州新町は道の駅を活用し、山菜の販売やキノコ祭り等を行っている。

(委員) 農業、林業とどのように協力していくか考えることが必要。

(委員) 信州新町で味噌作りを体験し、その後民家へ行っておやきを食べたが、観光素材になると思う。

Q : 中山間地域といっても漠然としている。複数の地域でのアクションプランなのか、1箇所のものなのか、教えていただきたい。

A : 1箇所ということは考えていない。ピックアップできる地域からいくつかの資源を入れていくようにしていく。

(委員) 地域の方々との信頼関係を築くことが必須であり、それには時間がかかる。その後でビジネスの話ができる。1～2年では難しいと考える。

Q : アクションプランについてはスケジュールがあるが、第2節までの政策などについてはスケジュールが定まっていないが、どのように考えているのか。

A : 政策については取り組みを進めるなかで、5年後にはこのような姿を目指すという計画であり、数字の目標値は示されているが、事業一つ一つに対してスケジュールまでは盛り込んではいない。

(委員) これは計画上のスケジュールであって、実際のスケジュールとは違うものとする。五年後の姿があって、その実現に向けて進めていくものである。

(委員) エリア別キャンペーンがあり、これで10年になる。大抵のことはできていると思う。5年間かけて、最後の仕上げとしてDMOになれば長野市としてはますます発展すると思う。

(委員) これまでの積み上げがデータとしてあり、これからやるべき仕事が総括されているということであり、それで日々の目標が立ってくると思う。

(委員) これはあくまで戦略的な話として、戦術的な話はPDCAで追いかけ、進捗管理を行う。

(委員) プログラムが多すぎるので、整理しないと大変なのではないか。

(委員) 多いがどれも間違っていない。戦略としてはこれで良いと思う。具体策についてはこれからである。

<今後の予定>

今回の意見を反映し、もう一度修正する。

11月4日に審議会本会有るので、そこへ素案を提示したい。  
その後、承諾いただければ、庁内会議にかけ、議会会派へ説明し、12月頃にパブリックコメントを実施し、1月中旬くらいに分科会を開催する予定。その後審議会本会に諮り、計画の決定というスケジュールとなる。

以上